

氏名	畝 博
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第1157号
学位授与の日付	昭和55年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	チェンソーによる振動障害に関する研究 —— チェンソー使用中止時期の検討 ——
論文審査委員	教授 緒方 正名 教授 田辺 剛造 教授 中山 沃

学位論文内容の要旨

チェンソーの使用を中止した国有林労働者206名をレイノー現象の有無、振動障害の治療歴およびその使用中止後の就労形態別に5群に分類し、チェンソー使用中止後約5年の間隔を置いて、その使用中止による効果を群別に比較検討した。評価方法は自覚症状、末梢循環機能検査およびレ線所見によった。

その結果は次のごとくである。

①レイノー現象あり群では治療の効果が十分認められず、自覚症状有訴率および末梢循環機能の改善は緩徐であり、チェンソー使用中止後も長期にわたって振動障害の症状が持続している。②レイノー現象なし群の中で相対的に年齢構成が高くチェンソー使用年数も長い群では、レイノー現象あり群と類似した傾向が認められた。③レイノー現象なし群の中で最も年齢構成が若くチェンソー使用年数も短い群では、レイノー現象あり群と比較して、チェンソー使用中止時における上肢のシビレ感、上肢の関節痛およびその他振動障害でよく認められる症状の有訴率は低率であり、かつチェンソー使用中止後の改善は治療を受けていないにもかかわらず、良好であった。④肘関節痛に関して、肘関節レ線所見の軽い群ではその有訴率が低下し、チェンソーによる伐木から手鋸・手斧伐木に変更した効果が認められたが、レ線所見の異常が高度な群では有訴率が不変あるいは上昇を示し、その効果が認められなかった。

以上の結果より、レイノー現象発症後にチェンソー使用を中止したのでは、使用中止後も長期にわたって振動障害の症状が持続し、チェンソー使用中止時期としては適切ではなく、また肘関節レ線所見で高度変化を有する労働者が手鋸・手斧伐木作業に従事するのは望ましくないとの結論を得た。

論文審査の結果の要旨

チェンソー使用中止後の国有林労働者のレイノー現象の有無，振動障害の治療歴，中止後の就労形態別分類を行い，中止後の中止効果を各群別に検討した。レイノー現象群は自覚症状有訴率および末梢循環機能改善は緩徐で，使用中止後，長期の振動障害症状が持続し，使用年数の長い群はレイノー現象あり群と類似傾向があった。また加齢現象の影響も認められた。肘関節レ線所見の軽症群ではその有訴率が低下し，伐木から手鋸・手斧伐木の変更効果が認められ，異常高度群は不変又は上昇した。以上の成績より，チェンソー使用中止後もその対策の必要性を述べている。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。